

## NPO 自立支援センター ふるさとの会

2006.12.20  
【第12号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

HOME PAGE

SCHEDULE

EVENT 総

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

### INDEX

- 1.11/24地域支援センター合同イベント「筑波山紅葉狩りツアー」報告
- 2.12/8「HIVシンポ」参加報告
- 3.移行支援事業レポート
- 4.敬老室特別行事(クリスマス会)の報告
- 5.今月のボランティア募集～越年祭りスペシャル～

#### 1.筑波山紅葉狩りツアーに参加して

杖をついてきた人、車椅子を押してもらってきた人、自ら歩いてきた人……いろは商店街の入り口に集まってきました。利用者のNさんは「山は寒いから厚着してきたよ」と、マフラーを見せてくれました。11月24日、台東とすみだの両地域生活支援センター、宿泊所の利用者さんと筑波山に行ってきました。

総勢76名(利用者54名、職員21名、ボラ1名)で、中型バス、ワゴン車、三台に分けて出発。カラオケを楽しみながら二時間で筑波山の中ほど(標高約500メートル)に到着し、弁当を食べました。

『山は綺麗だけど、上がると寒いね。お茶が温かかったら最高だ』と、隣でAさんが呟く。弁当が終わると、ロープウェイに乗り、眼下に広がる紅葉を楽しみながら300メートル昇って、山頂まで上ると、海と見間違えるほど大きい霞ヶ浦が遠くに見えました。

ロープウェイで降りてくると、そろそろ帰宅時間でした。『もうちょっと温かい所で、一杯やりながらゆっくり出来たらな』とロープウェイで隣だったOさんが寂しそうに言っていました。『お酒以外は、次回までの宿題にします』と、答えました。



集合写真でいいお顔！



山腹のレストハウスで暖まる利用者さんとヘルパー

(大塚直史)

#### 2.12/8「HIVシンポジウム」参加報告

12月8日(金)、地域と専門医療の連携を目指し、第十回HIV/AIDS在宅療養支援研究会が都民ホールにて開催され、実例として地域で暮らすAIDS発症者を支援したケースの発表を行ないました。

一事例目はふるさとの会が支援してきたケースで、まずACCの武田コーディネーターナースが、患者の発症時からの対応や、医療経過や服薬内容、そして患者の病状が落ち着いた後、地域に戻して行く過程の支援内容を説明しました。

それをうけて、ふるさとの会の滝脇憲(宿泊所・自立援助ホーム担当)が、患者の住居保証という観点から、宿泊所に受け入れの際に話し合った科学的リスクや社会的リスク、受け入れてからの医療や福祉との連携体制、自立へのステップとして用意したプログラムやサービスを説明しました。説明の際には、深々とうなずいている方もいらっしゃいました。

ヘルパーステーションふるさとからも大塚直史が発表を行い、実際にヘルパーとして携わる側の考えや体験を報告しました。

二事例目も含め、様々な団体が発表されましたが、多くの団体が共通して「HIV/AIDSに対する認識不足等が恐怖感や不安感などを大きくする」という内容のことをお話されていました。反対に言えば、しっかりとした知識(対応法)があれば、恐怖感や不安感などは大幅に減らせる、ということです。確かな知識を身につけ、ACCなど専門的な他職種と連携をとりつつケアの社会性を拡充することが重要だと考えています。

シンポジウムを通じ、急速に増えて行くHIV感染者/AIDS発症者が、地域で生きていくための連携システムが少しずつ見えてきた感触がありました。  
(尾竹 唱木)

\* ACC-国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター

### 3.地域生活移行支援事業を実施中です！

ふるさとの会では、「ホームレス地域生活移行支援事業」をサポートセンター事業組合より受託し、現在実施中です。テント生活をしているホームレスの方に2年間限定で月3000円のアパートを提供する「移行支援事業生活サポート」。2年前に第一期がスタートして今回が2期目となるこの事業の責任者として、東奔西走している菅沼職員からコメントをもらいました。

『今回は責任者ということで身が引き締まる思いです。前回の移行支援事業から関わらせていただいたお陰で、色々なケースを経験し、生活保護制度についても知識が蓄積されたという実感があります。今関わっている利用者さんたちの2年後を常にイメージしつつ取り組んでいます。』



利用者さんの相談に熱意を持って応える菅沼職員 両国に設置したふるさとの会の移行支援特設ブース

(金井 麻衣子)

### 4.「敬老室」レポート

ふるさとの会では、2001年4月より社会福祉法人の再委託で東京都施設の運営を行ってきましたが、2003年度より財団化した同施設「(財)城北労働・福祉センター分館敬老室」(以下「敬老室」)を直接委託で引き続き管理運営しています。

「敬老室」は、山谷地域に住む60歳以上の高齢者を対象としており、毎日80～90人の利用者が利用しています。休息所という機能に加えて健康面を気遣った毎日のラジオ体操実施、地域のNPOである「訪問看護ステーションコスモス」の健康相談、「山谷マック」の酒害相談等を行っています。娯楽面では、普段から利用できるテレビ、図書、将棋・囲碁コーナーだけでなく、週1回行われる映画上映やコーヒーなどドリンクサービス等などを行っています。設備面ではシャワーを使用できるようになっています。また、通常日曜日は休館していたものを「ボランティアサークルふるさとの会」が開放し、「善意銀行友の会」の協力を得て、季節のイベントを行っています。11月は俳句会と親子丼を作り、利用者へ提供しました。12月はクリスマス会を行い、多くの利用者楽しんでいただけました。

今回、「敬老室」の中や外でのラジオ体操を見て感じたことは利用者にとって、「敬老室」は生活のリズムをつくれる場となっており、閉じこもりの防止にもつながっていると感じました。



いつもおなじみハモニカバンド



心のこもった行事献立



カラオケ教室でご指導いただいている美咲先生

(西川 雄啓)

### 5.今月のボランティア募集～越年祭りスペシャル～

街はすっかりクリスマス一色。いよいよ歳も押し詰まってまいりました。暖冬だった今年もさすがに年末になって冷え込みが厳しくなってきましたが、皆さまいかがお過ごしですか？

さて、年末年始にかけてふるさとの会では、例年通り『越年冬祭り』を開催します。担当者からのメッセージです。たくさんの方々のご参加ご協力をお願い申し上げます。

いつもお世話になっております。

ボランティアサークルふるさとの会です！

さて、ふるさとの会は今年も、恒例の“越年冬祭り”を開催します！

12月29日～1月3日までの6日間、路上生活者の方を対象に、炊き出しや物資渡しを行います。

この目的は、彼らが少しでも元気になって前を向いていけるための元気づけと、ふるさとの会と彼らの関係づくりです。今は福祉事務所へ相談に行くことを踏み出せずにいる方が、いざ思い立った時にお手伝いできるためにという関係作りです。

この冬祭りに、お力を貸してくださるボランティアさんを大募集します！内容は、以下のとおりです。また、このまつりはボランティアのキャンパで運営されており、今年も資金繰りが大変困難な状況です。ですが、今後もなんとか継続したいので、人材面はもちろん、資金面でのご協力、また食材や衣類などの物資キャンパなど、どうかよろしく願いいたします。

＜ボランティア活動内容＞

\* あたたかい食事づくり(毎日違うメニューです！料理経験は問いません)

\* 炊き出し配食&路上生活者の方々との交流(言葉を交わして、彼らへ新しい風を送ってください)

\* 路上生活者ききとり調査(アンケートをとります)

＜活動期間＞

12月29日から1月3日まで 午前8時30分～午後5時(1日だけの参加OK)

朝8時30分集合ですが、参加時間応相談です。

※ 12月28日と1月4日も準備と後片付けのボランティアさんを募集しています。

＜連絡先＞ 地域生活支援センター『すみだ』03-5819-3254 (担当:古木)

ふるさとの会HP<<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>>

＜キャンパ振込み先＞ 郵便振替 00260-5-63218 ふるさとの会



2005年越年祭りの様子

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031東京都台東区千束4-39-6

TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950

E-mail: [hurusato@d5.dion.ne.jp](mailto:hurusato@d5.dion.ne.jp)

HTML: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>